遊び，非難，残忍さ
― John Miltonの作品における “sport”（前編）―

“Play”, “Criticism”, and “Inhumanity”: The Usage of “Sport” in the Works of John Milton

桶田　由衣[a]

Yui Oketa[a]

Abstract

This paper addresses the usage of “sport” in John Milton’s English works. In 17th century England, “sport” primarily meant “play” or “pastime.” At that time, sports or pastimes were controversial among Puritans, who believed that such things encouraged immorality. In 1633, Charles I reissued the *Book of Sports*, which prescribed recreation approved for the Sabbath and, consequently, offended Puritans like Milton. Given Milton’s criticism of excessive sports, the word “sport” almost certainly had an unfavorable or negative connotation. Although researchers have clarified Milton’s stance on sports or pastimes, few if any studies have focused on his usage of “sport” in his works. Milton used “sport” 17 times as a noun in his English works, consistently using it to criticize specific people. However, his usage of “sport” gradually changed over time. Whereas he used “sport” to denounce his opponents in his early works, he used it to condemn the immorality of people more indirectly in his works after the Restoration because of censorship. The usage of “sport” in the works of Milton will be helpful to understand the history of the meaning “sport”.

Key words: sport, pastime, recreation, play, Puritan
遊び，娯楽，ピューリタン

はじめに

“sport” という語は，19世紀まで「遊び」の意味が主流だった[1]．“sport” の語源や意味の変遷に関する研究は多々あるが[2]，文学作品を用いた “sport” の使用例の研究は多くない．文学作品はその時代の思想を写し出す鏡だと言われるように[3]，文学作品はその時代の思想を検証するためのツールとなる．例えば，稲垣[4] は，イギリス文学13作品におけるスポーツ文化について論じる際，「スポーツ」の語義が定着しつつある18世紀以降の作品を検証しているが，17世紀以前の作品を含めていない．[i] 17世紀頃の英国において，“sport” は「遊び」を指し，「スポーツ」とは別物だと指摘されるが[5]，近代スポーツの成り立ちを理解するためには，17世紀における “sport” を知る必要がある．

17世紀英国で娯楽を非難したのは，厳格な規律を求めたピューリタンであった[6]．共和制を率いた Oliver Cromwell（1599-1658）のもとで外国語秘書官を務めたピューリタン作家John Milton（1608-74）は，ピューリタンの娯楽に対する姿勢に賛同しつつも，娯楽全てを厳格に取り締まることに懐疑的だったとMcGuire[7] は指摘している．[ii] またCurrell[10] はMiltonの代表作*Paradise Lost*（1667）において，堕落した者が好戦的である様を “sport” の使用場面で表現されているという．従来の研究は，単語 “sport” の有無に関わらず娯楽に

本稿は，2019年7月20日，令和元年度日本大学学部連携ポスターセッションにおけるポスター発表「ジョン・ミルトンの作品の言葉の分析」に大幅な加筆修正を施したものである．

a　日本大学スポーツ科学部
College of Sports Sciences, Nihon University

i　稲垣が検証した一部の作品を列挙する．Henry Fielding（1707-54）作*The History of Tom Jones*（1749），Thomas Hughes（1822-96）作*Tom Brown’s School Days*（1857），Alan Sillitoe（1929-2010）作*The Loneliness of the Long-Distance Runner*（1959）．

ii　Miltonの娯楽批判の例として，仮面劇*A Mask*（1634）における悪役Comusの酒宴に対する批判がある[8]．中房は，William Shakespeare（1564–1616）が “sport” を「遊び」「愉しみ」として使用していたと指摘するが，Miltonへの言及はない[9]．

関する場面の検証や，1つの作品に特化した研究であり，Miltonの作品全体を通した単語 “sport” の検証ではない．本論は，Miltonの英語作品における名詞 “sport” の使用場面を検証し，Miltonが “sport” をどのように使用していたかを明らかにする．[iii]

1．信仰の堕落そして娯楽の政治利用―ピューリタンが “sport” を批判した理由

まず “sport” の語源とピューリタンが “sport”「娯楽」,「遊び」を批判した理由を簡潔に説明したい．単語の語源や意味の変遷が記載された*The Oxford English Dictionary*（以下*OED*）[12] [iv]によると，“sport” はラテン語 “dēportāre”「～を運ぶ」から派生し，それが古フランス語に取り入れられ，後に英語 “disport” の頭音が消失し，“sport” として用いられるようになった．[v]

1633年にCharles I（1600-49，在位1625-49）は容認できる “sport” を規定した*Book of Sports*を発布し，ダンス，跳躍，アーチェリーといったスポーツなどが含まれた[17]．[vi]ピューリタンが，上記のような現在も馴染みがある当時のスポーツも非難した理由として，Brailsford[18] は17世紀の最初の50年間，“sport” や “game” が，健康のための運動をあまり指さず，身体運動に「遊び」の要素が入り込んだためであり，このような状況に激怒したピューリタンは，不信を募らせ，娯楽に厳しい目を向けざるを得なくなったという．

娯楽への非難の理由の1つに，Charles Iが安息日すなわち日曜日の娯楽活動を許容したことが挙げられる[19]．*Book of Sports*は，日曜日に行える娯楽を規定しているのだが，ピューリタンは日曜日に遊びに心を移すことこそ，神への奉仕を怠るものとして非難した[20]．そして別の理由として，娯楽を政治利用したことが挙げられる．Charles Iが，娯楽である仮面劇を自分たちの威厳を示すためのプロパガンダとして用いたために，ピューリタンは反対した[21]．結果，Charles Iは処刑され，1649年から1660年の約10年間共和制が敷かれた．こうした背景をもとに，Miltonの英語作品における “sport” の使用例を検証する．

2．Milton の作品と “sport” の使用例

Miltonの英語作品の中で，韻文は9箇所，散文は8箇所，計17箇所認められた．検証した結果，“sport” は多くの作品において「遊び」や「娯楽」として使用されているため，“sport” の語義での分類では，有意な差は生まれなかった．そこでMiltonの創作年代に基づいて，文脈から検証した結果，大きく3つの区分B，C，Eに分けられ，その中でも特異な用法であるAとDを別にし，表1のように分類した．

BはMiltonが主に共和制府に関与するまでの作品で，「娯楽」を規定するような文脈で使用されている．AもBに含まれるが，擬人化という特異な例であるため分けた．Cも共和制府に関与するまでの作品だが，主に散文作品が多く，人を非難する文脈で用いた例である．DはCやEに含まれるが，他の区分にはない「もてあそばれるもの」の意味で，かつ*Paradise Lost*のみに見られた使用例のため，1つの区分と見なした．EはMiltonが共和制の崩壊，失明といった逆境の中で執筆，出版した作品が主で，Bとは違って残忍な場面での “sport” の使用例が認められた．しかも1650年代中頃からMiltonの倫理観に変化が生じたという新井[22] の指摘に従い，Bと区別した．この区分をもとに，“sport” の各創作年代における使用頻度，使用率そして使用例を表2と表3のようにまとめた．なお，表2のパーセンテージは表1の使用頻度における割合を示している．

---

iii　紙幅の関係で，本論は前後編に分けることとする．また，Miltonの作品からの引用は，全て*The Works of John Milton*[11] から用いた．今後韻文作品は引用文の後の括弧に行数を，散文作品は引用文の後の括弧にページ数を記載する．Milton はラテン語作品も創作しているが，訳者がラテン語を「スポーツ」の意味で英訳している例もあるため，ラテン語作品は検証に含めない．また，名詞 “sport” に限定した理由として，次の2点を挙げる．1つ目に，今後「遊び」に関する名詞の類語について検証するため，2つ目に「遊び」の類語として，“sport” と同じく名詞，動詞同形の “play” だけでなく，“recreation” 等の名詞も含むため，本稿は名詞のみの検証とした．なお，Milton の英語作品において動詞 “sport” は6例確認しており，1例を挙げる．“Sporting the Lion rampd, and in his paw/Dandl'd the Kid;” (*Paradise Lost* 4.343-4)

iv　*OED*は，「英語の歴史を最も包括的にそして一般語を最も完全な形で記録した辞書」と称されている[13]．*OED*の特徴は，各単語の廃義も含めた語義を掲載し，その語義が使用された文献の引用例を記載している[14]．その例のうち，初出例はその語義が使用され始めた時期の目安となる．

v　“sport” の語源については，阿部[15] と中房[16] も参照されたい．

vi　James I（1566-1625，在位1603-25）が1617年に*Declaration of Sports*を発布したのが発端である．

表１　創作年代に基づいた文脈による区分とその使用頻度

創作年代	創作年代に基づいた文脈による区分	使用頻度
前期：共和政府樹立前（主に1640年代以前）	A：擬人化の例	1
	B：「遊び」「娯楽」「楽しみ」の例	4
中期：共和政府樹立前（主に1640年代）	C：「非難」「嘲り」の例	5
後期：王政復古後（主に1660年以降）	D：堕落したものへの制裁の例	2
	E：残忍な場面と関連づけられる「娯楽」「遊び」の例	5

表２　表１の区分の各年代ごとの使用頻度および使用率の変遷

	A	B	C	D	E
前期：共和政府樹立前（主に1640年代以前）	1（100%）	2（50%）	0（0%）	0（0%）	0（0%）
中期：共和政府樹立前（主に1640年代）	0（0%）	2（50%）	3（60%）	0（0%）	0（0%）
後期：王政復古後（主に1660年以降）	0（0%）	0（0%）	2（40%）	2（100%）	5（100%）

表３　英語作品での使用例

No.	作品名（創作年）	韻文／散文	使用例（一部抜粋）	区分
(a)	*L'Allegro*（c.1632）	韻文	Sport that wrinkled Care derides	A
(b)	*A Mask*（1634）	韻文	Hail Goddess of Nocturnal sport	B
(c)		韻文	We shall catch them at their sport	B
(d)	*Animadversions*（1641）	散文	to thinke of the sport	C
(e)	*Church-government*（1642）	散文	our publick sports	B
(f)	*An Apology*（1642）	散文	they made sport, and I laught	C
(g)	*Of Education*（1644）	散文	That having in sport, … serv'd out the rudiments of their Souldiership	B
(h)	*Colasterion*（1645）	散文	Since my fate extorts from mee a talent of sport …	C
(i)	*Paradise Lost*（1667）	韻文	the sport and prey Of racking whirlwinds	D
(j)		韻文	The sport of Winds	D
(k)	*History of Britain*（1670）	散文	thir Wives also came in Waggons to sit and behold the sport	E
(l)		散文	they took part of it and burnt it, committing all sorts of massacher as a sport	E
(m)		散文	*Godwin* and his Sons … ofttimes making sport with his simplicity	C
(n)	*Paradise Regain'd*（1671）	韻文	Then cruel, by thir sports to blood enur'd	E
(o)	*Samson Agonistes*（1671）	韻文	I deluded her, and turn'd to sport Her importunity	C
(p)		韻文	When to thir sports they turn'd.	E
(q)		韻文	They only set on sport and play	E

“sport” は，初期の頃から晩年にかけて使用されているものの，“sport” の使い方が年々変化しているのは明らかである.[vii]上記の区分を元に検証し，最後に全体の考察を行う.

３．擬人化の “sport”

歓喜がテーマの（a）*L'Allegro*（c.1632）においては，“sport” が次のように擬人化されている．“Haste thee nymph, and bring with thee / Jest and youthful Jollity, / …. / Sport that wrincled Care derides,”（*L'Allegro* 25–6, 31）本作品の語り手が仙女nymphに呼びかけ，擬人化された “Jest” や “Jollity” といった戯れ，饗宴に関連するものと共に “sport”「気晴らし」も女神 “Mirth” のもとに連れて行くようにと言う．該当箇所を見ると，Miltonが「遊び」を肯定的に見ていたと考えられるが，本作品の対の作品で，歓喜を排除し，“melancholy” 沈思黙考をテーマとする*Il Penseroso*（c.1632）も念頭に入れなければMiltonの意図を理解できないことは，先行研究でも指摘されていることから，*L'Allegro*のみでMiltonの娯楽に関する思想を判断することはできない[23]．なお，（a）の引用文は，*OED* の “Pleasant, pastime; entertainment or amusement; recreation, diversion”[24] の語義の使用例として引用されており，特に擬人化の例としては，Edmund Spenser（c.1552–99）の作品と本作品を含めて２例しかない．“sport” の擬人化の例として極めて貴重な例であると言える.

４．「遊び」「娯楽」「楽しみ」の例

仮面劇*A Mask*（1634）の（b）は，次の神的存在の描写に用いられている．“Hail Goddess of Nocturnal sport / Dark vail'd *Cotytto*,…”（*A Mask* 128–9）本作品の悪役で快楽に浸る魔神Comusが，夜の酒盛りを始める際に “sport”「戯れ」の女神Cotyttoに向かって呼びかけており，悪役の助力となるものが “sport” を司る神的存在であることから，Milton が乱痴気騒ぎに値する娯楽に否定的であったといえる.

一方，同作品の（c）は，Comusの宴会の場面とは正反対の場面である．終盤，Comusの誘惑から解放された主人公the Lady は，弟たちと共に案内役の守護天使の導きで，父親のWales総督就任の祝賀会場に向かう．その会場の様子を守護天使が次のように語る．“All the Swains that there abide, / With Jiggs, and rural dance resort, / We shall catch them at their sport,”（*A Mask* 950–2）自分たちが到着した時には，牧夫らが楽しげに踊りながら会場に向かう様子を見るだろうと言うが，奇しくも盛儀に関連する場面で “sport” が用いられている．同じ言葉でも，乱痴気騒ぎの酒宴と統治者の祝宴の性質の違いを示している．とはいえ，Miltonの仮面劇は，他の仮面劇よりもダンスの場面が少ないという指摘もあること[25]，また先述した*Book of Sports*で容認された娯楽にダンスも含んでいたと考えると，祝宴やダンスの場面を縮小したいというMiltonの意図があったと考えられる.[viii]

（e）*Church-government*（1642）は，教会の正しい統治方法について論じたものである．Miltonは，為政者に対し，次のことを考慮にいれるよう要望する．“… it were happy for the Common wealth, if our Magistrates, … would take into their care, … the managing of our publick sports, and festival pastimes, that they might be, not such as were authoriz'd a while since, the provocations of drunkennesse and lust, but such as may inure and harden our bodies by martial exercises to all warlike skil and performance…”（*Church-government* 239–40）為政者には，我々の肉体を訓練する軍事訓練に値する “our publick sports” 公共の「楽しみ」について検討するよう述べており，“the provocations of drunkennesse and lust”「酔態と淫蕩を挑発するもの」であるべきではないとMiltonはいう．「酔態と淫蕩を挑発するもの」は，*Book of Sports*を指すとHaug[26]や新井・田中[27]の指摘があるように，それはMiltonにとって人を堕落させるものであったのは明らかである.

（g）*Of Education*（1644）は，英国における教育についてまとめた作品である．本作品には，体育に関する言及があり，Miltonが体育教育を重視していたことが窺える．“sport” も体育への言及の中で使用されている.

vii　1650年代の作品がない理由として，Miltonが当時共和政府で外国語秘書官として活躍しており，基本的に当時の国際的公用語ラテン語を駆使した政治論文を執筆することが多かったためだと考えられる.

viii　*A Mas*kの全1022行の内，終盤の祝宴の場面は20行ほどしかない.

> … they are by a sudden alarum or watch word, to be call'd out to their military motions,… ; That having in sport, but with much exactness, and daily muster, serv'd out the rudiments of their Souldiership in all the skill of Embattelling, Marching, Encamping, Fortifying, Besieging and Battering, with all the helps of ancient and modern stratagems, *Tacticks* and warlike maxims, they may as it were out of a long War come forth renowned and perfect Commanders in the service of their Country.（*Of Education* 289）

体育は “military motion” 軍事教練を指し，それを “in sport”「楽しみながら」行うことをMiltonは否定していない，つまり教育的効果が認められる “sport” な状況であれば，容認するのである．上記 4 例より，Miltonは，軍事教練として身体を鍛える場合と，限られた状況で適度な場合のみに “sport” を認めることがわかる．

５．「非難」「嘲り」の例

（d）の*Animadversions upon the Remonstrants Defence against Smectymnuus*（1641，以下，*Animadversions*）は，主教Joseph Hallに対するキリスト教の主教制度批判の論文である． Milton がHallの著作の一節を引用し，それにMiltonが返答する形式で書かれており，“sport” は，Hallの*A Humble Remonstrance*（1640）からの引用文にある．聖職者の醜聞がペリシテ人[ix]の支配地で公になることを禁ずるべきというHallをMiltonは非難し，Hallの一節を引用する．“What a death it is to thinke of the sport and advantage these watchfull enemies, these opposite spectators will be sure to make of our sinne and shame?”（*Animadversions* 169）[x]楽しみ事を考えて，敵の利益になるのは，恐ろしいことであり，これこそ我々の罪になるのだろうかと問いている．これにMiltonは “This is but to fling and strugle under the inevitable net of God, that now begins to inviron you round.”（*Animadversions* 170）と返答し，神の元で悪あがきしているに過ぎず，いずれHall自身にも降りかかることだと非難する．Miltonが言及している訳ではないが，宗教的に対峙する者と “sport” を関連した箇所をMilton が意図的に引用したと言える．

（f）の*An Apology for Smectymnuus*（1642）も主教制度批判の内容である．若き聖職者や聖職者を志す者たちが，舞台で道化などを演じる様を宮廷の廷臣らの目にとまることが，恥晒しであると言い，自分たちを堂々とした人間だと思っている聖職者の舞台上の姿についてこう述べる．“…; they thought themselves gallant men, and I thought them fools, they made sport, and I laught, ….”（*An Apology* 300）聖職者は観客を “make sport” 楽しませようとするが，Milton はその姿を面白がると皮肉を述べている．

（h）*Colasterion*（1645）は，Miltonの離婚論に批判した人物への反駁の論文である．Miltonは，馬鹿げた論敵には相応しい呼び名をつけようと皮肉をこめて次のように述べる．“Since my fate extorts from mee a talent of sport, which I had thought to hide in a napkin, hee shall bee my *Batrachomuomachia*, my *Bavius*, my *Calandrino*, the common adagy of ignorance and overweening.”（*Colasterion* 272）使わずにいた自分の「遊び」の才能が奪われたため，自分の論敵を “*Batrachomuomachia*” 擬叙事詩のタイトルで表現したり，“*Bavius*” 三文詩人や “*Calandrino*” 無礼な愚か者と表現しようと述べている．[xi]当該箇所においては，論敵を貶める際に “sport” を用いている．

次の例は，英国の歴史を記した（m）*History of Britain*（1670）である．告解王King Edward（c.1003–66）の義父Earl of the West SaxonsのGodwin（?-c.1053）によるKing Edwardへの行為について次のように語られる．“…*Godwin* and his Sons bore themselves arrogantly and proudly towards the King, usurping to themselves equall share in the Government; ofttimes making sport with his simplicity, ….”（*History of Britain* 306）傲慢なGodwin父子が，King Edwardの無知さを物笑いの種にしていたという．Miltonが “make sport with” や “make sport” のようなイディオムとして “sport” を使用するのは上記 2 例だけであったが，人を嘲る場面で使用し

ix 『キリスト教大事典』[28] と『岩波 キリスト教辞典』[29] によると，キリスト教において，イスラエルの敵とされる民を指す．
x Hallの原文は，句読点の位置が若干異なり，“these opposite spectators” は当該引用箇所の前文にある[30]．
xi “*Batrachomuomachia*”, “*Bavius*”, “*Calandrino*” については，*Complete Prose Works of John Milton, vol. II*[31] 内の注釈を参考にした．

ている.[xii]

Miltonの最後の韻文作品で，旧約聖書「士師記」第13章から第16章までを土台とした（o）*Samson Agonistes*（1671）において，主人公Samsonは，妻Dalilaにだまされ，敵のペリシテ人に自身の力の在処である頭髪を削ぎ落とされ，投獄される．Dalilaは，ペリシテ人にSamsonの力の在処を問いただすよう言われ，Samsonに再三尋ねていた．SamsonはDalilaに対し，“Thrice I deluded her, and turn'd to sport / Her importunity, …”（*Samson Agonistes* 396-7）という様に，Dalilaの質問に茶化して答えずにいた．当該箇所はDalilaをからかうという意味で，相手を小馬鹿にしたような意味で用いている．なお，当該箇所の“sport”は，*OED*の2nd.ed.の“Jest, jesting; mirth or merriment”[32]の語義の初出例であり，この語義での代表例の1つとも言える．上記の引用例から，Milton は人を嘲り，非難する場合に“sport”を用いることがあったと言える．

（後編に続く）

引証資料

1）岸野雄三：スポーツ科学とは何か，スポーツの科学的原理，大修館書店，東京，81，1978．友添秀則他編：21世紀スポーツ大事典．大修館書店，東京，4-5, 2015.

2）岸野雄三：スポーツ科学とは何か，スポーツの科学的原理，大修館書店，東京，80-1，1978. 友添秀則他編：21世紀スポーツ大事典，大修館書店，東京，4-5，2015.

3）Taine, H. A. Translated by H. Van Laun: *History of English Literature, vol. 1*, New York: Holt & Williams; 1, 1871.

4）稲垣正浩：イギリス文学のなかにスポーツ文化を読む．叢文社，東京，7-251，2006.

5）水野忠文：スポーツとは何か，スポーツの科学的原理，大修館書店，東京，23，1978.

6）Brailsford, Dennis: *Sport and Society: Elizabeth to Anne*. London: Routledge & Kegan Paul; 127, 1969.

7）McGuire, Maryann Cale: *Milton's Puritan Masque*. Athens: U of Georgia P; 9-59, 1983.

8）Dougal, Alistair: *The Devil's Book: Charles I, the Book of Sports and Puritanism in Tudor and Early Stuart England*. Exeter: U of Exeter Press; 145-6, 2011.

9）中房敏朗：中世から近代へ―「ルードゥス」から「スポーツ」への道のり，スポーツの世界史，一色出版，東京，28-9，2018.

10）Currell, David: Milton's Epic Games: War and Recreation in *Paradise Lost. Games and War in Early Modern English Literature: From Shakespeare to Swift*. Amsterdam: Amsterdam University Press; 73-93, 2019.

11）Milton, John: *The Works of John Milton*. General editor, Frank Allen Patterson, 23 vols, Tokyo: Hon-no-tomosha; 1993.

12）“deport”,“disport”. *The Oxford English Dictionary*, 2nd. ed., vol. IV, Oxford UP, Oxford; 1991. “sport”. *The Oxford English Dictionary*, 2nd. ed., vol. XVI, Oxford UP, Oxford; 1991.

13）南出康世：*OED*覚え書き，女子大文学，2005, 6：5. http://doi.org/10.24729/00011020. November 1. 2019.

14）寺澤盾：英単語の世界．中央公論新社，東京，4, 2016.

15）阿部生雄他編：21世紀スポーツ大事典．大修館書店，東京，5-7，2015.

16）中房敏朗：中世から近代へ―「ルードゥス」から「スポーツ」への道のり，スポーツの世界史，一色出版，東京，23-52，2018.

17）Dougal, Alistair: *The Devil's Book: Charles I, the Book of Sports and Puritanism in Tudor and Early Stuart England*. Exeter: U of Exeter Press; 167, 2011.

18）Brailsford, Dennis: *Sport and Society: Elizabeth to Anne*. London: Routledge & Kegan Paul; 133, 1969.

19）Brailsford, Dennis: *Sport and Society: Elizabeth to*

xii　イディオム内の“sport”は名詞ではあるが，動詞句として用いられていることから，当該箇所のネガティブな意味が，動詞句から生じる意味であるのかについて，今後検証する必要がある．

Anne. London: Routledge & Kegan Paul; 127-33, 1969.

20）Brailsford, Dennis: *Sport and Society: Elizabeth to Anne*. London: Routledge & Kegan Paul; 127-33, 1969.

21）McGuire, Maryann Cale: *Milton's Puritan Masque*. Athens: U of Georgia P; 10-5, 1983.

22）新井明：ミルトンの世界－叙事詩性の軌跡，研究社，東京，270-1，1980.

23）Nicolson, Marjorie Hope: *A Reader's Guide to John Milton*. New York: Syracuse UP; 53, 1998. 新井明：ミルトンの世界－叙事詩性の軌跡，研究社，東京，60，1980. Teskey, Gordon: *The Oxford Handbook of Milton*. Oxford: Oxford UP; 75-86, 2009.

24）“sport”. *The Oxford English Dictionary*, 2nd. ed., vol. XVI, Oxford UP, Oxford; 1991.

25）Welsford, Enid: *The Court Masque: A Study in the Relationship between Poetry & the Revels*. Cambridge: Cambridge UP; 317, 2015.

26）Milton, John: *Reason of Church-government. Complete Prose Works of John Milton, vol. I*, edited by Ralph A. Haug, New Haven: Yale UP; 819, 1953.

27）ミルトン，ジョン：教会統治の理由．新井明・田中浩訳，未来社，東京，150，1986.

28）「ペリシテ」：キリスト教大事典．教文館，東京，1983.

29）「ペリシテ人」：岩波 キリスト教辞典．岩波書店，東京，2008.

30）Hall, Joseph: *An Humble Remonstrance to the High Covrt of Parliament*. Amsterdam: Theatrum Orbis Terrarum Ltd.; 37–8, 1970.

31）Milton, John: *Colasterion. Complete Prose Works of John Milton, vol. II*, edited by Lowell W. Coolidge, New Haven: Yale UP; 757, 1959.

32）“sport”. *The Oxford English Dictionary*, 2nd. ed., vol. XVI, Oxford UP, Oxford; 1991.

遊び，非難，残忍さ
― John Miltonの作品における “sport”（後編）―

“Play”, “Criticism”, and “Inhumanity”: The Usage of “Sport” in the Works of John Milton

桶田　由衣[a]
Yui Oketa[a]

６．堕落したものへの制裁の例

本節では，“the sport of winds”「風に弄ばれるもの」として使用された*Paradise Lost*の２例に注目する．*Paradise Lost*は第12巻から成り，旧約聖書「創世記」第３章をもとにした作品で，天界でのSatanを筆頭とした堕天使たちによる反逆，神の天地創造，Satanによる復讐，AdamとEveの堕落そして楽園追放がテーマである．(i) は，第２巻からの例で，神に反旗を翻して地獄に落とされた堕天使たちが，再び神に対して戦いを挑むかという議論の中で認められる．

… while we perhaps
Designing or exhorting glorious warr,
Caught in a fierie Tempest shall be hurl’d
Each on his rock transfixt, the sport and prey
Of racking whirlwinds, or for ever sunk
Under yon boyling Ocean, wrapt in Chains:
（*Paradise Lost* 2.178–83）

堕天使Belialが，神に挑んだ結果，灼熱の嵐に巻き込まれ，過酷な風に “sport”「もてあそばれる」だろうと消極的な意見を述べている．“the sport … Of racking whirlwinds” は，神による堕天使たちへの制裁であると考えられる．なお，上記の “sport” は，*OED*の2nd ed.における “That with which one plays or sports; that which forms the sport *of* some thing or person. That which is driven or whirled about by the wind or waves as in sport.[1]” の語義の初出例であり，この語義の先駆的な例の１つであると言える．

（j）もローマ・カトリック教の堕落した側面をMiltonは非難している．Satanが神への復讐のために地球へ向かう途中，次のような風が巻き起こるのを目にする．

…; then might ye see
Cowles, Hoods and Habits with thir wearers tost
And flutterd into Raggs, then Reliques, Beads,
Indulgences, Dispenses, Pardons, Bulls,
The sport of Winds: (*Paradise Lost* 3.489–93)

風に吹き飛ばされているものは，“Indulgences”「免罪符」といったローマ・カトリック教に関するもので，当該箇所はローマ・カトリック教への風刺だと言われている[2]．これらが風に飛ばされている様子を “sport”「もてあそばれる」というのである．

上記２例から，“sport” が堕落したものへの制裁の描写で用いられていることがわかる．Currell[3] も上記２例を挙げて，“sport” を好むものが堕落と関連づけられ，それらが神による風に吹き飛ばされるという皮肉を描いていると述べているが，“wind” と “sport” を合わせた表現が，*Paradise Lost*以外の作品にはない点を指摘しておらず，本作における特異な例であることを追記したい．

本稿は，2019年７月20日，令和元年度日本大学学部連携ポスターセッションにおけるポスター発表「ジョン・ミルトンの作品の言葉の分析」に大幅な加筆修正を施したものである．
[a] 日本大学スポーツ科学部
College of Sports Sciences, Nihon University

7．残忍な場面と関連づけられる「娯楽」「遊び」の例

本節で扱う “sport” は，政権交代の最中，逮捕状が出され，著書の焼きすて命令も出されたMiltonにとって苦難だった王政復古後に出版された作品が中心となっている．(k) の*History of Britain*は，古代ローマ人とブリトン人の争いに関連した場面である．“The *Britans* in Companies and Squadrons were every where shouting and swarming, such a multitude as at other time never; no less reckon’d then 200 and 30 thousand, so feirce and confident of Victorie, that thir Wives also came in Waggons to sit and behold the sport, as they made full account, of killing *Romans*:” (*History of Britain* 67) ブリトン人がローマ人を殺害したことで歓喜に沸く様子をブリトン人の女性が “sport”「娯楽」として見ているのである．こうした殺戮という残酷な行為によって生じた歓喜の場面で “sport” が用いられている．

同作品の (l) は，1000年頃のデーン人の襲来の場面である．“…, they took part of it and burnt it [=Canterbury], committing all sorts of massacher as a sport;” (*History of Britain* 263) デーン人は，カンタベリーに向かい，大虐殺を「娯楽」のごとく起こしていたという．*History of Britain*の上記2例は，流血沙汰の争いに関連した場面で “sport” を使用しているといえる．

次の (n) は，ChristとSatanとの論争がテーマの*Paradise Regain’d* (1671) のSatanがChristを誘惑する場面である．SatanはChristに国を授けようと誘惑するものの，その国民の堕落ぶりをChristに指摘される．“Then cruel, by thir sports to blood enur’d / Of fighting beasts, and men to beasts expos’d, / Luxurious by thir wealth, greedier still, / And from the daily Scene effeminate.” (*Paradise Regain’d* 4.139–42) 獣同士や獣と人を争わせることを “sport” として，人々が流血沙汰を見慣れるほど堕落しているとChristはいう．Christが磔刑に処される前であることを考えると，*History of Britain*同様，1000年頃までの人間が血生臭い行為を娯楽としていたことは明らかである．

(k)，(l)，(n) は，流血の伴う争いに関連する場面で “sport” を用いられている．いずれの作品も1000年頃の話であり，当時の残虐な争いと娯楽は表裏一体の関係であったと言える．Huizinga[4] は流血沙汰であったとしても，かつて争いと遊びは区別し難い関係であったと指摘しており，特に (l) と (n) は両方とも取れる描写である．[i]

(p) の*Samson Agonistes*は，投獄されたSamsonが，敵のペリシテ人の異教神Dagonの祝祭日に余興をするよう強要される場面での使用例である．[ii] “The Feast and noon grew high, and Sacrifice / Had fill’d thir hearts with mirth, high chear, & wine, / When to thir sports they turn’d.” (*Samson Agonistes* 1612–4) 人々が歓楽や酒に満足していた時に，Samsonが力技を見せる余興を始めるのだが，これから始まるSamsonによる演技や試合などの一連の見世物を “sport” と表現している．当該箇所は，広義では「娯楽」ではあるが，文脈から考えると “sport” は「見世物」を指すといえる．

最後に*Samson Agonistes*からの (q) に注目したい．Samsonがその力技を見せるために，2本の柱を倒した結果，観客の祭司や淑女などの頭上に柱が落ち，Samsonもそこにいた全ての者も命を落とした．その惨状は次のように語られる．“They only set on sport and play / Unweetingly importun’d / Thir own destruction to come speedy upon them.” (*Samson Agonistes* 1679–81) 観客は，“sport and play”「娯楽」や「遊び」に気をとられている間に命を落としたと述べており，自分たちが招いた行為で死を招くことになったという．当該箇所の “sport” は，(p) で言及したSamsonによる力技を示す余興を含めた一連の見世物などを指し，こうした娯楽に興じてばかりでは，身を亡ぼすことを示していると考えられる．(p)，(q) は，奴隷のような人間を見て楽しむ様を “sport” を使って表現しており，血は流さずとも人が苦しめられ，貶められるような場面でMiltonは “sport” を用いている．

---

i　Huizinga[5] は，ドイツ語原文で「遊び」の英訳を “play” としているが，特に (l) はHuizinga の「遊び」の理論に通ずるものである．

ii　Dagonの祝祭日では，見世物，試合などが繰り広げられるという[6]．ピューリタンが，娯楽に興じる人々のモラルの破綻する様を非難していたように，*Samson Agonistes*のペリシテ人らの祝祭の場面は，当時のこうしたモラルの破綻した様子を描いているとMcGuire[7] は指摘する．

８．考察

Miltonの “sport” の使用例の特徴は，次のように結論づけられる．Miltonは堕落した状況や人々を非難する時に “sport” を使用することが多い．しかし，その使い方も以下のように時代と共に変化していった．

・前期（主に1640年代以前）：A，B

Miltonが共和政府に関与する以前の作品の内，主に初期の韻文作品と散文作品の使用例であるAとBにおいては，限定的な状況下での適切な娯楽に関する言及が多く読みとれた。

・中期（主に1640年代）：C

A，Bと同様に，CもMilton が共和政府に関与する以前の作品ではあるが，主に韻文作品の中で，望ましくない娯楽や特定の人物を直接非難する場合に，Miltonは “sport” を使用していた．

・後期（主に1660年以降）：D，E

主に王政復古後の作品が多くみられたD，Eにおいては，“sport” が残虐な場面で用いられるという王政復古前の作品にはあまり見られない特徴が見られた。Miltonは特定の人物の直接的な非難を避けつつ，残忍さと娯楽が表裏一体の描写の際に “sport” を使用した．それは王政復古後に出版する書物に全て検閲が入ったため，直接的な非難を避ける傾向にあったと考えられる[8)]．その代わりに，聖書を題材とした作品を用いて，再び娯楽を容認した君主制とそれに興じる者に間接的に非難するように執筆したと考えられる．

また，検証した全17例の中で，*OED*の2nd ed.の “sport” の語義の使用例として，Miltonの作品が３例列挙されており，“sport” の語義やその変遷を見る上で，Miltonの作品を検証する意義があるといえる．本論は，“sport” に限定した検証を行ったが，類語として “pastime”, “diversion”, “recreation”, “game”, “play” などがあり，類語も含めた検証も今後必要である．１例を挙げると，現状の考察によれば，“recreation” は，適切な娯楽を議論する際にMiltonが使用しており，Miltonが単語を使い分けていた可能性がある．

おわりに

Miltonが「遊び」や「娯楽」に批判的であったことは，従来の研究と同様であった．しかしながら，本研究で得られた知見は，「スポーツ」よりも多義的な “sport” の語義や意味の変遷を理解するために，Miltonの作品は有益であること，自身の論敵や堕落した状況を批判する場面で “sport” を使用していること，そして王政復古後の作品においては，Huizingaの指摘のように，争いと娯楽の区別できない時代の人間の残虐な行いをMiltonは “sport” を用いて表現していたことが挙げられる．Miltonの作品研究を始めとして，文学作品研究は，“sport” の意味を知る上で一助となりえるだろう．

引証資料

1）“sport”. *The Oxford English Dictionary*, 2nd. ed., vol. XVI, Oxford UP, Oxford; 1991.

2）ミルトン，ジョン：楽園の喪失，新井明訳，大修館書店，東京，79，1983.

3）Currell, David: Milton’s Epic Games: War and Recreation in *Paradise Lost. Games and War in Early Modern English Literature: From Shakespeare to Swift*. Amsterdam: Amsterdam University Press; 82, 2019.

4）Huizinga, Johan: H*omo Ludens: A Study of the Play-Element in Culture*, translated by R.F.G. Hull, London: Routledge; 40–1, 1999.

5）Huizinga, Johan: *Homo Ludens: Vom Ursprung der Kulter in Spiel*, Hamburg: Rowohlt; 44, 1956.

6）Milton, John: *Samson Agonistes. The Works of John Milton*. General editor, Frank Allen Patterson, vol 1, part II, Tokyo: Hon-no-tomosha; 1993: 1311–2.

7）McGuire, Maryann Cale: *Milton’s Puritan Masque*. Athens: U of Georgia P; 57, 1983.

8）Wilson, Hugh: The Publication of *Paradise Lost*, The Occasion of the First Edition: Censorship and Resistance. *Milton Studies*. 1999; 37: 18–41.